

人おこし町おこし

60

広島県吳市

西日本豪雨の被災体験を未来に生かす

町内の半が水没

2018年7月6日の西日本豪雨に襲われた広島県吳市は、土砂崩れなどで多数の被害者を出し、高速道路に国道・JRも止まり、一時は23万人が孤立状態になった。山に囲まれた谷間に坂道に沿って住宅が並ぶ地区では、街を流れる川があふれ、多くの家が浸水。市議会議員の岡崎源太朗さんが住む天応宮町も大規模な水害に見舞われた。天応宮町自治会長・消防団副分団長として救援・復旧活動に奮闘した岡崎さんに話を聞いた。

「吳市は山が海に迫る地形で平地が少なく、低地が水害を受けました。私が住んでいる天応宮町も一番低い土地で、我が家は少し高所にあるので助かったのですが、63世帯ある自治会の9割が水没しました。しかも、JRの線

路の土手が堤防になり、水が1週間ほど抜けませんでした。7年前の枕崎台風では3カ月間水没した記録があり、その後、水抜きの穴を設けたのですが、

今回の豪雨でそこに流された自動車が折り重なり、被害が拡大しました。」

岡崎さんはゴムボートに支援物資を積み、2階に避難している20世帯の人たちに食料や水など配った。2軒コンビニが営業していたので飲料水を買いたい、支所にあつた非常食のアルファ米200食を配つた。支援物資が届くようになったのは3日後からで、コンビニのポップラが独自の水源を持つていて、米を持参すると炊いてくれたので炊き立てのご飯を配ることができたと喜ぶ。

「幸い町内では死傷者はいなかったのですが、少し山よりの地区では土砂崩れで12人が亡くなっています」

全壊2軒で26軒が半壊だが取り壊すことになった。

あの尾畠さんが町内に

やがて復旧作業が始まるが、問題は堆積した大量の土砂だった。

「道路や水路、家の中にも土砂が5センチ以上積もっていました。それをボランティアの助けを借りながら除去したのです。粘土が固まつたような土で、スコップですくい取るのに苦労しました」

折り重なつていた車5台は重機ではさみ、近くの駐車場に移した。駐車場は地主の許可を得て、家庭の大型ごみなどの置き場にも使つた。

話題になったのは、山口県周防大島町で行方不明になつた2歳の男の子を探し出したスーパー・ボランティアの尾畠春夫さんが町内に来たこと。一時、

岡崎源太朗さん

吳市議会議員



テレビ報道された岡崎議員と尾島さん

いろいろお世話をになりました
うれしいです また戻ってもらつて

基督の福音を宣教するボランティア団体「ボランティアの座石の話に波」の活動を紹介するテレビ番組の一部。岡崎議員と尾島さんは、泥の除去作業で一緒に働く姿が映されている。

〔氏子の力〕

「ボランティアの作業は朝9時からですが、尾島さんは30分前には来て、道具を並べたりするので私も付き合いました。食事は持参し、夜は乗つてきました。軽自動車で休んでいました。最初は泥の中の泥の除去で、床下の泥を除くには水を吸つて重くなつた畳を上げたのですが、バールがありません。尾島さんはさすがベテランで、持参のドライバー2本で上げ、家の土は土のうに入れて出すので、土の入れ方など初心者を指導していました」

助けられたのは宗教団体のボランティアの活躍。キリスト教の奉仕団は毎日50人が来て、重機3台とダンプ2台で、神社の境内に溜まった流木と土砂を片付けてくれた。

山口に出かけ、戻ってきた尾島さんを自治会会長として岡崎さんが握手で迎えると、その場面がテレビで放映された。「ボランティアの作業は朝9時からですが、尾島さんは30分前には来て、道具を並べたりするので私も付き合いました。食事は持参し、夜は乗つてきました。軽自動車で休んでいました。最初は泥の中の泥の除去で、床下の泥を除くには水を吸つて重くなつた畳を上げたのですが、バールがありません。尾島さんはさすがベテランで、持参のドライバー2本で上げ、家の土は土のうに入れて出すので、土の入れ方など初心者を指導していました」

ではできないので、キリスト教の奉仕団に感謝していました。吳には救世軍の児童養護施設・愛光園があり、私はPTAの関係で日頃お世話をしていたので、天應地区での救援活動をお願いしました。2ヶ月半ほどかけ、町内の土砂も取り除いてくれました。市道は市の責任なのですが、手が回らなかつたのです。お寺の境内もきれいにしてくれました。

神道・仏教系の宗教団体は高圧洗浄機3台を貸してくれたので、岡崎さんは家屋や道路の洗浄に使つた。活動の様子は岡崎さんのフェイスブックでよく分かる。

防災まちづくりを

復旧と並行して、災害に強いまちづくりのため、岡崎さんは呉市や広島県にいろいろ要請・提案している。県には砂防堰堤の設置と護岸の補強、市には水害に備えた住宅の整備である。

「南海トラフ地震での津波を警戒して、山に登る里道を避難路にしています。道が崩れないように、緑化事業の補助金で脇に木を植えましたところ、まちづくりに邁進している。」

S



昭和35年広島県呉市生まれ。自衛隊に入隊。広島県立国泰寺高校、海上自衛隊少年術科学校卒業。自由民主党国会议員秘書、県議会議員秘書を経て、平成9年、呉市議会議員補欠選挙に立候補するも落選。平成11年、呉市議会議員に初当選し、現在5期目。天應宮町自治会会长。